

# 感覚器・理学診療科 てんかん科



科長  
中里 信和 教授

病棟 東病棟 12F  
 外来 外来診療棟A 3F 連絡先 022-717-7751 (外来)  
 ホームページ <http://www.hosp.tohoku.ac.jp/departments/1605.html>

## 主な対象疾患

- てんかん ●てんかんと鑑別を要する各種の発作性疾患

## 診療内容

てんかんは脳の局所的な異常興奮を本態とする「てんかん発作」を繰り返す疾患です。乳児から高齢者まで何歳からでも発症し、100人に1人、つまり日本では約100万人の病気です。てんかんでは、発作以外の悩みをもつ方も少なくありません。当科では、医学的な問題解決はもちろんのこと、多職種連携によって患者さん中心医療の実現を目指しています。かかりつけ医や、さまざまな社会資源との連携も強化しています。

ともするとこれまでは、てんかんは外来診療のみで診療される疾患でした。目安としては、外来診療開始から1年を経過しても発作が完全に抑制されない場合や、てんかんに関連して大きな悩みを抱えている場合、入院精査が運命を変える手段となりえます。てんかん科では12歳以上の患者さんに対し、通常は約4日間、連続してビデオと脳波で発作等をモニターする検査システムを導入しています。この2週間の入院期間を使って、神経画像検査、脳磁図検査、神経心理検査、心理社会的評価等を行い、退院後には症例検討会を行って治療方針を決定するシステムを採用しています。

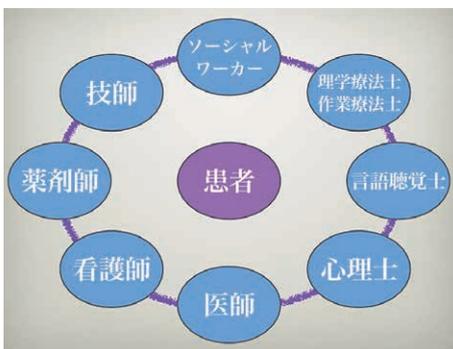
外来診療だけでは正しく診断できずに長年、悩みを抱えてきた患者さんや家族にとって、入院精査を核とする当科の診療方針は、人生をより良い方向に変えていけるものと信じております。

## 診療体制

中里信和教授と神一敬准教授が担当する外来診療では、新患・再診ともに完全予約制です。外来診療が不十分の場合は2週間の入院精査を行います。脳波とビデオを連続測定する長時間ビデオ脳波モニタリング検査や、各種の画像検査と心理検査を実施します。2週間の入院検査が終了後、神経内科、脳神経外科、小児科、精神科、放射線科などの医師や、心理士、看護師、臨床検査技師、ソーシャルワーカーからなる多職種での症例検討会が開催され、チームとしての治療方針を決定しています。

## 得意分野

てんかんと非てんかん性疾患との鑑別や合併例の診断、てんかん発作における睡眠障害や自律神経障害の診断、てんかんの薬物治療の選択や外科適応の診断、てんかんにおける抑うつ・不安などの精神症状への対応、本人・家族・社会との関わりで生じる心理社会的問題の発見と解決、脳波と脳磁図を用いた最新の電磁気生理学的診断、てんかん医と神経放射線科医との合同カンファレンスを介した高度な画像診断など、てんかんに関しての高度な診療体制を構築しています。



患者中心医療を実現する多職種連携体制



入院で実施している「ビデオ脳波モニタリング」検査



中里信和監修、てんかんのことがよくわかる本。講談社、2015

## ご紹介いただく際の留意事項

■初診では、かかりつけ医の紹介状が必須です。患者さんや家族からの直接の予約は受け付けていません。初診時は家族等の付添が必要です。発作の瞬間に居合わせた方が同席するか、診察当日に外来担当医が電話で質問できるとより助かります。また、中里信和教授監修の「てんかんのことがよくわかる本(講談社、2017年)」などで、あらかじめ事前の準備をしてから受診されると診察がスムーズに進みます。また、オンライン診療アプリCLINICS「クリニック」による「てんかんオンライン・セカンドオピニオン」も実施しています。